

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 17年11月－アジア向けを中心 に好調が続く輸出

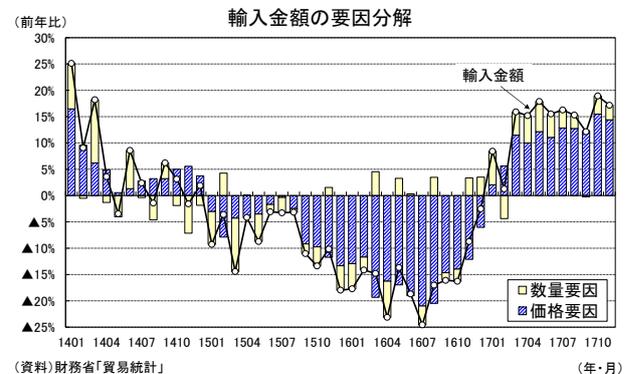
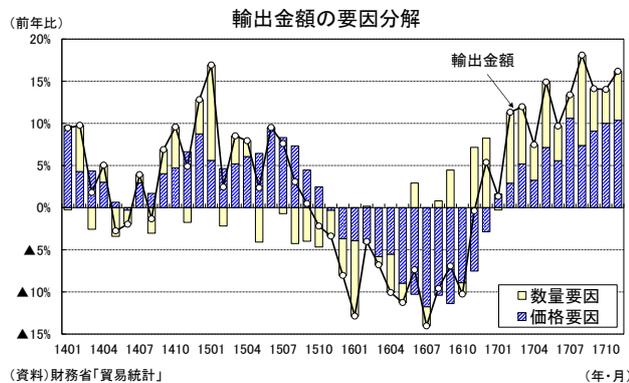
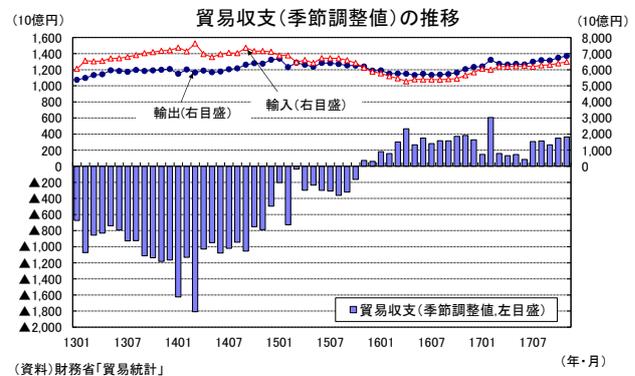
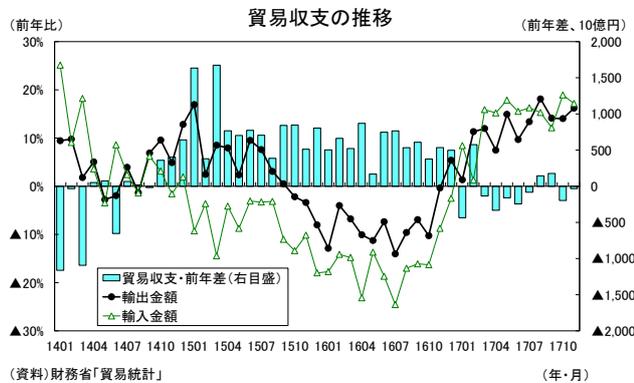
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 原油価格大幅上昇でも貿易黒字を維持

財務省が12月18日に公表した貿易統計によると、17年11月の貿易収支は1,134億円と6ヵ月連続の黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲58億円、当社予想は▲82億円）を上回る結果となった。輸出入ともに前年比で二桁の高い伸びが続いたが、原油価格上昇の影響から輸入の伸び（前年比17.2%）が輸出の伸び（同16.2%）を上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲332億円の悪化となった。

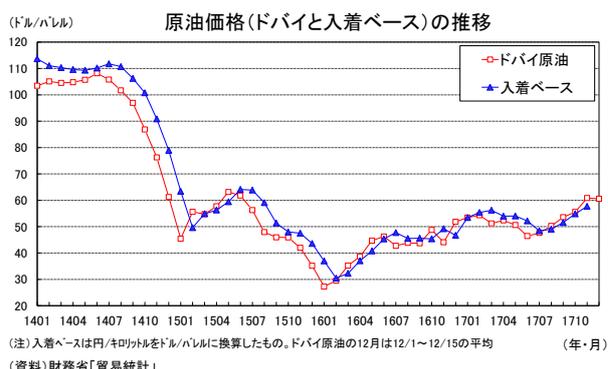
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比5.5%（10月：同3.8%）、輸出価格が前年比10.1%（10月：同9.8%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比2.6%（10月：同3.2%）、輸入価格が前年比14.2%（10月：同15.2%）であった。



季節調整値の貿易収支は3,641億円の黒字となり、10月の3,493億円から黒字幅が若干拡大した。

輸出が前月比 1.6%の増加となり、輸入の伸び（同 1.4%）を上回った。

11月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=57.7ドル（当研究所による試算値）となり、10月の54.8ドルから上昇した。足もとのドバイ原油は60ドル程度で推移しており、通関ベースの原油価格も12月には60ドル台に上昇することが見込まれる。輸出は底堅く推移しているが、原油価格上昇に伴う輸入価格の上昇を主因として、先行きの貿易収支（季節調整値）は縮小する可能性が高いだろう。

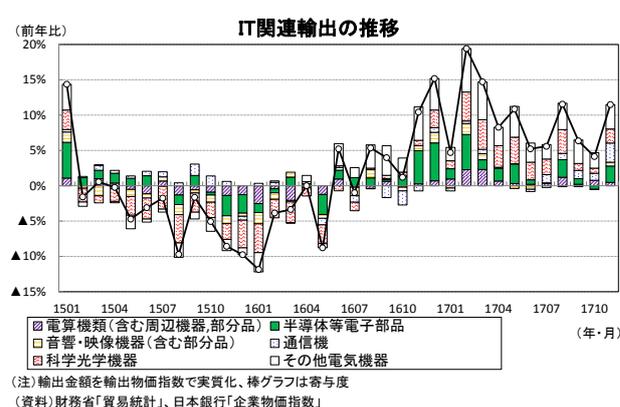
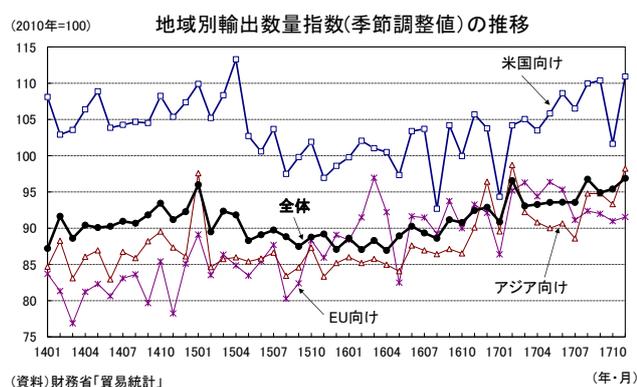


2. アジア向け輸出が好調

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 4.8%（10月：同 1.6%）、EU向けが前年比▲1.8%（10月：同 0.6%）、アジア向けが前年比 9.1%（10月：同 7.8%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比 9.1%（10月：同▲7.9%）、EU向けが前月比 0.6%（10月：同▲1.1%）、アジア向けが前月比 5.2%（10月：同▲1.6%）、全体では前月比 1.6%（10月：同 0.5%）となった。10、11月の水準を7-9月期と比較すると、米国向けは▲2.5%、EU向けは▲0.6%下回っているが、アジア向けが 3.3%上回り、全体では 1.1%上回っている。輸出は、IT関連を中心とした世界的な製造業サイクルの好転を背景に、アジア向けを中心に好調を維持している。

一方、11月の輸入数量指数（当研究所による季節調整値）は前月比 0.9%（10月：同 0.1%）と2ヵ月連続で上昇したが、10、11月の平均は7-9月期と同水準となっている。



7-9月期のGDP速報では、財貨・サービスの輸出が前期比 1.5%と2四半期ぶりの増加となる一方、財貨・サービスの輸入が同▲1.6%と5四半期ぶりに減少したため、外需寄与度が前期比 0.5%と成長率を大きく押し上げた。

10-12月期は輸出が底堅さを維持するものの、国内需要の持ち直しを反映し輸入が増加に転じることから、外需のプラス幅は縮小することが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。